

病院訪問
2012
ドクターに聞く

桑園整形外科 東裕隆 理事長・院長

組織への侵襲が低く、リハビリも容易になる 小皮切(最小侵襲手術)による人工関節置換術

年のせいと放置されやすい変形性膝関節症 加齢、若いときの負担やケガなどが原因

下肢疾患を専門とする東裕隆院長は、前職の市立札幌病院から、変形性膝関節症や前十字靭帯損傷の手術を多数手掛けてきたが、「あくまで治療は保存療法が原則。生活に支障をきたさず、痛みを耐えられないなどに適用をしっかりと絞って手術を行う」との方針を示す。

東院長が特に力を入れているのが変形性膝関節症に対する治療だ。この疾患は、膝関節にかかる衝撃を吸収する軟骨や半月板が磨り減って、次第に硬い骨まで破壊されていくというもの。発症の原因として



Profire

理事長・院長 東 裕隆

1992年北海道大学医学部卒業。市立札幌病院整形外科副院長を経て、2007年桑園整形外科開院。日本整形外科学会認定整形外科専門医、同学会認定医(脊椎脊髄病・スポーツ・リウマチ)。医学博士

患者の肉体的・精神的な負担を軽減 社会復帰も早い小皮切・人工関節置換術

東院長は治療において、あくまで患者の身になって考え、手術をしない保存療法を第一に選択。筋力訓練や消炎鎮痛剤の使用、軟骨を構成する成



分であるヒアルロン酸の注射。日常生活動作の指導などの保存療法を一通り行っても効果のない患者や、来院の時点で痛みの激しい患者などに、検討した上で人工関節置換術に踏み切るという。

手術においても、患者への負担を減らすことを重視。15~30cmの切開で行う従来法に比べて、膝蓋骨を避けるように側面から5~9cmの切開で行って筋肉を傷つけない小皮切(最小侵襲手術)と呼ばれる手法を用いている。多い週で4~5件行い、2011年度の実績は179件に上った。累積症例数は700件を超え、全道のみならず、本州や海外からも患者は訪れる。「膝関節はその構造や可動域の広さから、股関節などに比べて術後のリハビリテーションの負担や苦痛が大きくなります。小さい切開で筋肉を傷つけないようにして手術を行うことで、比較的容易なりハビリを目指しています。術後の回復が早く、入院期間も2~3週間と

▶小皮切・人工関節置換術の手術風景。膝関節は複数の靭帯がつながっていて、小さな切開での手術には高度な手技が求められるため、導入している整形外科は数少ない

短くてすむことから、患者の満足度は高いという。また、小皮切は傷が目立ちにくくなるため、日常生活における外見の不安も少なくなる。東院長は「その上で、表皮の下の真皮を細かく縫い合わせる真皮縫合という方法を取り入れ、より傷を目立たせないよう心掛けています。」



▲15~30cmの切開で行う従来法に比べて、小皮切での手術後はわずか5~9cm。術後の整容面でも優れ、ほとんど目立たない



▲「医療技術とホスピタリティーの両面から患者さんに満足してもらいたい」と話す東院長。ホテルのロビーを思わせる待合室など、院内は落ち着いた雰囲気

医療法人社団 くわのみ会

桑園整形外科

札幌市中央区北8条西16丁目28

TEL.011-633-3636

- 診療科目/整形外科、リウマチ科、リハビリテーション科、麻酔科(福原 世世医師)
- アクセス/JR「桑園」駅下車徒歩約5分
- 駐車場/有(21台)
- 無料送迎バス有

診療時間	月~金曜	土曜	休診日
	9:00~12:00 14:00~18:00	9:00~12:00	日曜、祝日

<http://www.dr-azuma.net/>

